



五月祭

引き続き、同市江口の五月ヶ丘に鎮座する五月宮へ移動。五月宮も御社殿はなく、大きな常緑樹を依代とする神籬祭場で、その前庭に浜宮祭と同じく神饌をお供えし、午前十一時浜宮祭参列者

新緑の五月五日(こどもの日)、恒例の五月・浜宮祭が、宗像市江口の五月宮と神湊の浜宮でそれぞれ斎行された。当日、高向権宮司以下神職四名が神湊に鎮座する浜宮へ出向。浜宮には御社殿はなく石祠で、その御神前に海川山野の味物(たぬつもの)に加え、「赤飯」「粽」「ガメの葉饅頭」「菖蒲酒」など端午の節句を象徴する神饌をお供えし、午前十時三〇分浜宮祭を斎行。当大社責任役員、氏子会長、地元総代をはじめ神湊地区の各区長をはじめ地元の方が多数参列された。

五月・浜宮祭斎行

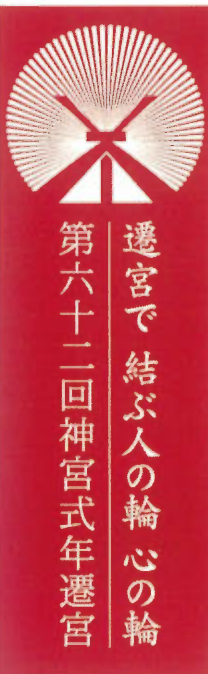


浜宮祭

沖ノ島は昭和五十九年に鳥獣保護区に指定された。玄界灘の真只中にあり、絶海の孤島として屹立し、多くの種類の野鳥が生息する島である。この島の代表的な鳥はオオミスズナギドリで十二〜十八万羽が生息する。全長は五〇センチ、両翼を広げると二二〇センチになる。日中は海で魚を探り、日が暮れると島に戻り、地面に掘った巣で子育てをする渡り鳥で、鳴き声は甲高く「ピーウイ」とか「グワーエー」と聞こえ、夜の島内はこの鳥たちの重なり合う鳴き声で、不気味さも漂う神秘的な鳥の世界となる。鳥獣保護区の鳥たちにも、弱肉強食の自然の摂理がある。突然、甲高い警戒の鳴声とともに、小鳥の群れが猛禽類(ハヤブサ・ワシ・タカ等)から追われ、梢をゆらし猛スピードで森の中より飛び出し、急角度で方向転換を繰り返しながら、森の中に逃げ込む光景など、食物連鎖の戦いが日々行われている。大嵐の時、沖ノ島は羽を傷めた鳥や方向感覚を失った鳥たちの避難地となる。伝書鳩や完全に片方の羽が折れた鳥もいる。それらの鳥は、絶えず上空を旋回する猛禽類を警戒しながら羽を休め回復を待つが、弱れば羽と骨だけとなる。鳥の夕暮れ時、数百羽の猛禽類たちがいくつもの大きな輪を作りながら大空を帆翔することがある。羽ばたきを止め、紙飛行機のようにゆつくりと、高く高く何層にも弧を描きながら上昇する。この優雅な帆翔は、大自然の中に生を受け、命を謳歌する気高さを感じる。沖ノ島は鳥たちの神の島でもある。(渡)



沖ノ島は昭和五十九年に鳥獣保護区に指定された。



6月祭事暦

毎月1・15日 宵談祭
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)



神具・装束・授与品

井筒

栄東店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

に加え、江口区長、玄海少年自然の家関係者ら地元の方が多数参列される中、五月祭を齋行した。

祭典終了後、五月寮で直会が催され、高向権宮司より五月・浜宮祭の由緒を交えた挨拶があり、参列者一同連綿と受け継ぐことの大切さを感じつつ菖蒲酒で乾杯。榎の若葉が敷かれた折敷に盛られた赤飯、がめ煮・臍・粽を古式ゆか



五月寮での直会

しく栗箸でいただきながら、神人和楽の一刻を過ごした。

今から約六〇〇年前の当大社の祭事記録によれば、この五月・浜宮祭について、海上に「濱殿」という御旅所が江口浜(河口)に設けられていたとある。

五月五日この濱殿へ田島宮(現〓辺津宮)から、宗像三宮(沖・中・辺津宮)と許斐宮(宗像市丸)・織職宮(宗像市鐘崎)宗像五社の神輿が御神幸したこと。秋の「放生会」に対し「五月会」と呼ばれる程の賑わいをみせていたこと等が記されている。

稲の成長を予祝する神事でもあるこの五月・浜宮祭が終わると、神郡宗像では田植えの準備が始まり、一面の水田に早苗が影を浮かべながら夏へと木々も緑を深めていく。



宗像大社氏子青年会・玄海未来塾 第十回 沖ノ島清掃奉仕活動

四月二十四日、宗像大社氏子青年会(会長〓小林栄二氏)及び、地域まちおこし団体「玄海未来塾」(代表〓小林正勝氏)の会員、塾生合わせて三十九名が、本年も沖ノ島へ渡島、清掃奉仕を行った。

この行事は、年に一度約二五〇名の一般参拝者を受け入

れる「沖津宮現地大祭」を迎えるにあたって実施され、本年で十回目となる。

当日は「天候晴朗なれども波高し」といった天候の中、午前八時鐘崎港を出国。約二時間後無事に沖ノ島に到着。数名は船酔いし、ぐったりされていたが、一同直ちに海中で禊を行い身を清め、島の中腹に鎮座される沖津宮へ向かった。

先ず沖津宮本殿で奉告祭を齋行。その後、当大社葺津禰宜より挨拶・説明があり奉仕作業

に入った。

本殿の屋根に積もった枯葉を落とす等の本殿周りの整備、崩れかかった参道の脇に草を移植する等の参道整備、生活水汲み上げ場の整備、社務所外壁の塗装補修等、それぞれの持ち場を分担、平素勤務している一名の神職では行えない作業を約二時間奉仕いただいた。

作業後は一同波止場で直会を行い帰路に着いた。出港後は島を一周、沖ノ島の幽玄な景観を拝した後、穏やかにになった玄界灘を進み、夕刻には無事神鐘崎港に到着、本年の奉仕作業を無事に終えた。



平成二十一年度 宗像大社奨学金受給生奉告祭

第五十期を迎え、受給生は延べ七九五人に

四月二十九日(昭和の日)、今年度の奨学金受給生奉告祭が斎行され、本年度の受給生がご神前に参集した。尚、今春の新受給生二十名で第五十期生となり、延べ人数は七九五

人へのぼる。

当日は宗像・福津両市内より受給生約六十人が保護者とともに参集。午前十一時から



奨学金を受ける生徒代表

の昭和祭に参列後、拜殿に昇殿し奉告祭が斎行され、一同有為な人材になるよう勉学に勤しむことを御神前に誓った。

祭典後は清明殿で選定書授与式と説明会が行われ、高向権宮司から宗像大社奨学金選定書が生徒の代表に授与され、担当神職よりこの奨学金の歴史、制定目的、規定、受給方法等についての説明が行われた。

その後、生徒一人一人がテーマに沿った作文を

執筆し、書き終えた生徒から奨学金支給を受け、境内をあらとにした。(この作文は『奨学生作文の御紹介』として紙面で掲載します)

当大社の奨学金制度は、昭和三十四年の今上陛下御成婚を奉祝して制定され、翌年の昭和三十五年第一期生として宗像市・郡内の中学校出身者(当時は六中学校)に支給され今日に至っている。現在では宗像・福津市内十中学校より各校二名づつ選定し三年間支給している。

第六期生某氏からの 篤志奉納

大型連休の賑わいも落ち着いてきた五月十日、突然初老の男性が社務所を訪ねてこられた。お話を伺うと当大社奨学金を受けていたとのこと、初穂料を納めていかれた。

御芳名から第六期生の方で、福岡中学校を卒業後宗像高校へ進まれたことがすぐに

- 第50期新奨学生20名は下記の通り**
- | |
|-----------------|
| 橋本 崇伺 (大島 中卒) |
| 豊福 一仁 (" ") |
| 梶谷 祥子 (玄海 中卒) |
| 村田 春奈 (" ") |
| 加藤 綾哉 (日の里 中卒) |
| 黒川史央里 (" ") |
| 北 直樹 (宗像 中央卒) |
| 中野 正也 (" ") |
| 藤田 知邑 (城山 中卒) |
| 菊池 裕二 (" ") |
| 迫 健介 (河東 中卒) |
| 山崎 有記 (" ") |
| 松永 英朗 (自由ヶ丘 中卒) |
| 岡田 望花 (" ") |
| 赤間 彩加 (津屋崎 中卒) |
| 久野永利加 (" ") |
| 岡部 壱誠 (福間 中卒) |
| 横山 春菜 (" ") |
| 末永 由美 (福間東 中卒) |
| 宇都優美香 (" ") |

判明。高校卒業後は大学へ進学、金融関係の仕事に従事され、先日、無事に定年退職したとのことであった。定年退職を契機に感謝の気持ちを捧げたいと来社された。今後は再び 某氏のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。



沖ノ島の鳥たち ⑤

沖ノ島の鳥類相の特徴

岡部海都(オカベ ヒロト)
 (財)九州環境管理協会研究員
 昭和44年(1969)2月生れ。宗像市在住。
 昭和64年(1989)から鳥類標識調査を始める。
 平成4年(1992)から(財)九州環境管理協会
 に勤務。鳥類等種々の陸生生物の調査に従事。
 日本鳥類標識協会、日本野鳥の会などの会員。

これまでの連載では沖ノ島の特徴的な鳥類や調査でのエピソードを紹介してきました。最終回の今回は沖ノ島の鳥類相についてご紹介しま

す。鳥類相とは、その地域の鳥類の生息状況のことで、東アジアの鳥類相と言うように世界規模でみることもあれば、沖ノ島の鳥類相と言うように狭い地域でみることもありま

す。今回は沖ノ島の鳥類全体について、中津宮のある大島と、辺津宮のある宗像市の本土部分とを比較しながらご紹介いたします(写真はすべて沖ノ島にて著者撮影)。



カンムリウミスズメ

宗像市全体ではこれまでに254種の鳥類が記録されています(表1)。このうち沖ノ島では193種が確認されています。一方、宗像市の本土部分では沖ノ島とほぼ同数の192種です。宗像市の面積の1%に満たない沖ノ島

で、河川・山地・農耕地・海岸といった多様な環境要素がみられる宗像市本土と、ほぼ同じ種数が確認されており、とても多くの鳥類が見られると言えます。

沖ノ島は、カンムリウミスズメやヒメクロウミツバメなどの重要種が繁殖しているため、日本野鳥の会の「重要野鳥生息地」などに選定されるなど、重要な鳥類の生息地として知られています。では繁殖している種全体ではどのような特徴がみられるのでしょうか。



ヤマセンニュウ

沖ノ島で繁殖すると思われる種は14種程度で、本土の63種と比べてかなり少なく、大島の25種よりも少なくなっています(表1)。つまり、繁殖する種数で見ると、沖ノ島はかなり少ないということになります。しかし、繁殖する種数に含まれる重要な種を見ても、沖ノ島の側面が見えてきます。一般に環境省のレッドデータブックに掲載されている種は重要種とされます。沖ノ島では繁殖種数が少ないにも関わらず、大島・本土よりも多くの重要種が繁殖しているのがわかります(表2)。しかも、特に重要な高い絶滅危惧種が多く含まれているのが特徴です。つまり、「普通の鳥は少ないが、重要な鳥が多い」ということになります。これは、陸から遠く離れた孤島のために特殊な環境がみられることと、神域として守られてきたことで人間の影響が制限されてきたためと思われる。

なお、これまでの連載で取り上げていない重要種にウチヤマセンニュウがあります。ウグイスに似た地味な小鳥で

ます。しかし、繁殖する種数に含まれる重要種の数を見てみると別の側面が見えてきます。一般に環境省のレッドデータブックに掲載されている種は重要種とされます。沖ノ島では繁殖種数が少ないにも関わらず、大島・本土よりも多くの重要種が繁殖しているのがわかります(表2)。しかも、特に重要な高い絶滅危惧種が多く含まれているのが特徴です。つまり、「普通の鳥は少ないが、重要な鳥が多い」ということになります。これは、陸から遠く離れた孤島のために特殊な環境がみられることと、神域として守られてきたことで人間の影響が制限されてきたためと思われる。

表1. 沖ノ島・大島・宗像市本土での確認種数

	沖ノ島	大島	宗像市本土
確認種	193種	153種	192種
繁殖する種	14種	25種	63種
越冬する種	13種	36種	64種
渡り時期に見られる種	166種	92種	65種

表2. 繁殖する種数に含まれる重要種数

福岡県レッドデータブック	沖ノ島	大島	宗像市本土
絶滅危惧ⅠA類	2種	0	0
絶滅危惧ⅠB類	1種	0	0
絶滅危惧Ⅱ類	2種	3種	5種
準絶滅危惧	1種	2種	8種

すが、日本の周りのごく限られた島で見られない大変貴重な鳥です。沖ノ島には5月の連休明け頃渡来し、社務所裏の草地で「チュルル、チ



イソヒヨドリ

ユカチユカ…」と元気にさえずっているのが、神官の皆様にもお馴染みではないでしょうか。9月には東南アジア方面へ渡って行きます。

その他、年中見られる鳥として、ミサゴ、トビ、クロサギ、イソヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、ハシブトガラスなどがありませんが、これらは沖ノ島で繁殖していると思われません。

では、沖ノ島の冬はどうでしょう。実は沖ノ島での調査は繁殖する鳥類を対象に行われるため、冬に鳥類調査が行われることはなく、ほとんど知られていないのが実情です。ここでは私がノネコの調査で冬に訪れた際の観察記録から推測します。冬に見られる種も、繁殖する種と同様、宗像市本土や大島より少なくなっています(表1)。これは面積が小さく環境要素が少ないこと、鳥の好む木の実などが少ないためと思われれます。冬の沖ノ島を訪れた印象では、参道を歩いても鳥の気配はあまりなく、鳥が少ないように感じました。冬は重要種もあり生息していないようです。

最初に沖ノ島では多くの種が記録されていると述べましたが、繁殖する種、越冬する種は少ないことがわかりました。つまり、残り「渡り鳥」ということになりました。玄界灘は、日本海沿いを南北に渡って行くルートと、朝鮮半島との行き来の渡りルートの「交差点」となっており、多くの種が通過しています。沖ノ島は玄界灘に浮かぶ孤島のため、疲れた鳥が羽を休めに降りてくることが多いのです。特に天候が急変した際には多くの鳥が見られるようになるのは、神官の皆様はよくご存知のことと思います。沖ノ島の鳥類調査は年に1、2回あるかないかですから、その少ない観察日数で193種という多くの種が確認されているわけです。調査が行われていない時期もありますし、これからはまだまだ確認種は増えていくでしょう。

5回にわたった沖ノ島の鳥たちについての連載もこれで終わりです。玄界灘や日本海には多くの鳥がいますが、沖ノ島と同じ鳥類相がみられる鳥はなく、独自の生態系が形成されています。また、カンムリウミスズメ、ヒメクロウミツバメのように世界的な希少種の数少ない繁殖地になっていたリ、リュウキュウコノハズクのように学術上とても興味深い種もみられます。

これからも、この自然が沖ノ島の伝統とともに守られていくことを願って止みません。

最後に、これまで多年にわたって沖ノ島の鳥類調査のご許可をいただき、また今回の連載の機会を与えていただき、また宗像大社様にお礼申し上げます。また今後鳥類調査でお世話になるかと思われれますが、その際にはどうぞよろしくお願いたします。

たつて沖ノ島での鳥類調査のご許可をいただき、また今回の連載の機会を与えていただき、また宗像大社様にお礼申し上げます。また今後鳥類調査でお世話になるかと思われれますが、その際にはどうぞよろしくお願いたします。

宗像の山々が新緑に包まれた五月二日(六日迄)第二十六回宗像大社奉納盆栽展が奉納盆栽会(会長 石松重敏氏)により、本殿西側の境内で開催された。

この奉納盆栽会は宗像地区(宗像・福津市)の盆栽愛好家が「宗像大社の御神徳の発揚に努め、併せて会員相互の親睦を計り、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及盆栽技術の研究に励み、盆栽発展の一助とする」ことを目的に結成され、毎年春秋の二回盆栽展を開催しており、春は昭和五十九年から開催されている。

二日午前九時から宗像大社奉納盆栽会、当大社職員によって会場設営作業が行われ、会場が完成すると出品盆栽を各地区から搬入。優美な黒松、五葉松、紅葉などから、山野草、シマツルボ、イタドリ、ナゴヤツタなどの小品盆栽が境内に展示された。

大型連休中ということもあり参拝者も多く、日差しの強い夏日の中でも年齢問わず多くの参拝者が、しばし足を止め熱心に眺める姿がよくみられた。

また、期間中は会員が交代で境内に常駐され、参拝者から質問に答え、中には自慢の作品を持参される方もおり、その場で手入れの仕方などのやりとりが盛んに行われていた。そして、格調高い日本の美をさらに広めることを念じながら、六日夕刻に盆栽展は終了した。

第二十六回 春季奉納盆栽展



リュウキュウコノハズク



氏八満神社春祭

着すると着御祭を齋行。葦津禰宜、矢野区長が玉串拝礼を行った。

朝から好天に恵まれた四月十九日(日)、田島地区の氏神・氏八満神社で、矢野明彦田島区長をはじめ田島区総代、氏子等多数参列の下春祭が齋行された。

当日、高向権宮司と神職一名が出向し、午前十時三〇分に齋御祭を齋行。御神璽が神輿へ奉安されると、児童達のリコーダー演奏が始まり宗像大社までの御神幸が始まった。

一行は田島区内をゆつくりと進み、御旅所とする当大社「祓舎」に到



午前十一時五〇分参拝者で賑わう当大社を出発し、田島公民館へと御神幸が始まった。釣川沿いを進むと行き交う車の方から珍しそうに観る人や、手を合わせる人もおり、児童達の演奏にも熱が込もっていた。

正午過ぎ、田島公民館に到着。一同祭事無事終えた安堵感からか、満足そうな面持ちで直会を楽しんだ。

午後二時御神璽を還御する還御祭が行なわれ、今年の春祭を終えた。

氏八満神社は当大社大宮司家と所縁深い菊姫、山田の局、侍女四柱を奉祀し、例祭は春と秋の年二回齋行されている。

御神幸が行なわれるのは春祭で、「また来年が楽しみだ」との声もあり地元田島地区の氏子が毎年楽しみにしている神人和楽の行事である。



奨学生の作文紹介

第50期 古賀竟成館 1年

むらた はるな
村田 春菜 (玄海中学校出身)

玄海中学校で過ごしたこともあり、宗像大社は一歩校舎から出ればすぐにみえ、幼い時から身近な存在でした。

そして、宗像大社での一番の思い出は秋の放生会です。私の家は海の近くにあるので、放生会に先立ち行われる「みあれ祭」は毎年見に行っていました。昨年は学校全体でも歩いて見に行き、勇壮な神事だったのを覚えています。

そして沢山の出店が立ち並び、友達と参拝したこともとても楽しい思い出となっています。

正直言うと「神様なんて……」と想着いても、この「みあれ祭」を見たり、自然豊かな宗像大社に来ると、私は宗像大社の近くで生れて良かったなと感じます。宗像で生活する私達はきっとこの宗像大社の神様に、日々守られながら生きているんじゃないかと思えます。

今回私は宗像大社から奨学金を頂くことが出来ました。この神様がくれたお金を無駄にせず有意義に活用し、これから三年間学業に励みたいと思います。

第49期 宗像高等学校 2年

ふなこし ちほ
船越 千帆 (大島中学校出身)

私にとって宗像大社の一番の思い出は「みあれ祭」です。大島出身ということもあり、みあれ祭には小さい時から親につれられて見っていました。

小学校に入ってから、鼓笛隊の一員としてお神輿と一緒に中津宮から波止場まで行進していました。中学卒業までの十五年間毎年見ていたのに、毎回子供ながら感動していました。

特に地元の漁師さんたちの神様への感謝の気持ちや豊漁・安全への思いは、みている私にまで十分に伝わる程でした。

私が男だったら……。そう思ったのもこの時です。男性しか船に乗って神様を送れないのは残念ですが、家内安全や豊漁を願い波止場から船を見送っていました。

一度だけ対岸の神湊からパレードを見ました。いつもとはちがひ、大きな船団がくるのを見た時のあの迫力は忘れられません。

高校進学でみあれ祭に参加できなくなった事は、やはり寂しい気持ちになりますが、社会人になって時間ができたらまた、参加して大漁祈願、安全祈願をしたいと思っています。

(続)

浜の寄物

236

いしいただし



海岸を歩くとウミガメの死骸や骨などが漂着している。骨はバラバラになつていますが、他の動物骨とは判別がつく。

ウミガメは玄界沿岸に産卵の為に上陸し、福津市にはウミガメ課もあり、また海の中道のマリンワールドに連絡すると死骸も引き取ってくれて、ウミガメの種類も分かる。

一九八二〜一九九九年の間だけでも、約五十頭のウミガメが漂着しているし、種類もアカウミガメ・アオウミガメ・オサガメ・タイマイ・ヒメウミガメがある。ヒメウミガメの数は少ない。

古賀市の鹿部田遺跡の第三次調査では、一区黒褐色包層からウミガメの腹甲板の部分が発掘された。包層は十二〜十三世紀代のもので、土師器や青磁片(竜泉窯)を多く含んだ単独層であつた。



アカウミガメの胸骨板

ウミガメの構造は、甲羅を背甲と腹甲に分けられ、背中側の甲羅が背甲で、腹側が腹甲と呼ぶ。発掘されたウミガメの腹甲は胸骨板で半分に折れているが、長径二十一・五センチ、短径十九センチ、厚さ最大一センチほどあり、全体推

定の胸骨板は約三〇センチほどになり、かなり大形のウミガメである。七、八百年間ほど埋没しており、茶褐色となつて骨の状況は著しく悪い。

胸骨板は大きく四片に割れ、中央部に突き刺したような円形の穴がある。ウミガメの種類までは特定できないが、玄界沿岸で現在も産卵や漂着するのは、アカウミガメとアオウミガメがあり、



ウミガメが流れついた

田淵遺跡は大型建物群が確認されているが、五二七年の磐井の乱後、磐井の子葛子は罪が及ぶのを恐れて、屯倉を朝廷に献上したという糟屋屯倉の候補にもなっている。大型建物群の柱列を中心として、一帯を公園として保存整備が行われること

発掘された胸骨板

その可能性がある。ウミガメの胸骨板を出土した田淵遺跡は官衙的大型建物群が確認され、花鶴川河口の港に関連した施設とされ、糟屋屯倉の候補になつて



発掘された胸骨板

この一帯が花鶴浦の可能性があり、江戸時代の明暦四年(一六五八)には、漁業権を福津市(福岡浦)と糟屋郡新宮浦に分割して放棄し、魚村は消滅したが、その頃までかすかに潟湖の名残を留めていたと思われる。

舟形土器や滑石製舟形製品(未製品)も出土している。航海安全の祭祀も行われていたことが推察できる。(この件については次回にも触れたい) 田淵遺跡は大型建物群が確認されているが、五二七年の磐井の乱後、磐井の子葛子は罪が及ぶのを恐れて、屯倉を朝廷に献上したという糟屋屯倉の候補にもなっている。大型建物群の柱列を中心として、一帯を公園として保存整備が行われること

第五七四回 宗像大社歌会詠草

大野展男選毎月25日メロ



【評】 福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
 クスの根を跨ぎしときに滑りたり神苑の砂利雨雪に濡れいて
 その時佐々木さんは老いを感じたのだから。ご用心
 の程を。冬の景の歌。

【評】 宗像市 田久 巻 桔梗
 行事なき社のあした玉砂利を踏めばこだまのすくに反り来
 大社に帰依する作者らしい一首。初句を「春寒むの」とすれば、春の景の歌。

【評】 高宮をまず拜まむと登りゆく坂はひたひた昼の闇もつ
 これもまた大社にまつわる一首。四句は「坂は次第に」とすべきだが、「坂はひたひた青葉闇なす」とすると、前二首に続き、夏の景の歌となり、趣ある三首詠となる。
 うきは市 浮羽 向 則正

【評】 戦死せし父を知らずに成人すその不在には就職差別も
 人生を振り返つての感慨であろうが、不在は留守のことだから除き下句は「就職差別を受けるなどして」とする。

【評】 鎮国寺のひかり溢るる花の下傘寿の妻の笑顔撮りたり
 紆余曲折があつての今の幸福な一場面である。

【評】 深き藍に生れよと甕に焼酎を飲ませる人のすゆき香たす
 藍を作る工場の一首、格調あるうただが、四句は「人は飲ませて」として、鑑賞した。

【評】 購ひし甘き香りのフリージア胸に抱きぬ乙女の如く
 「乙女の如く」で一首が生き、ひととき立ち戻つた華やきがある。

【評】 風下に立てば香りの流れくる藤の花房十三ゆれる
 晩春を演出する藤の花を詠っているが、終止形が二つあるので、「三句は「流れくる香り」とし結句は「ゆれて」とする。

【評】 北朝鮮にとまどい二度の誤報する秋田の人の心思へば
 原作のままでは誤報をしたのは秋田の県庁のようであるし、初句も破調となつても「ミサイル発射にとまどい二度もする誤報秋田の人の心を思ふ」はどうか。

【評】 三時かな灯り点せば五時十一分見事にはずれて老いが笑みいる
 時刻を間違つたのは作者だろう、とすると結句の老いは誰か「老い母笑う」か「わが老い笑う」とすべきであろう。

【評】 春日さす川原に降りて広がりし白根輝くクレソンを摘む
 春らしい歌。ただ二句三句は「川原に降りゆき広がり」として歌意をはつきりさせたい。

【評】 一つの間にみどりの庭にそまりしや我とわが目をうたがうばかり
 季の移りの早さに驚く作者、二句は「なりたるや」が順直な表現だろう。

【評】 門くぐり我が家の路地のバラの花紅一輪が我を迎へぬ
 吾家に春を迎へたよろこびのうた。ただ我が二つ出てうるさいので結句は「迎えてくれる」がいい。

【評】 さくら咲くやよいの空を見上げれば不況も忘れ明日を夢見る
 桜は万人に希望を与えてくれ花である。さくらと言えはやはりは不要なので「さくら花咲る空を」とするのがいい。

【評】 兵器工廠に從きて北朝鮮引揚げのわが人生はかりそめならず
 重い内容の歌で心ひかれるが「兵器工廠に從きて」が判らなくて残念である。

【評】 連合軍ドイッの都市はドレスデン抵抗できぬ人を墓場に
 二句は省き、誰が人を墓場としたかを述べるべきである。

【評】 二人にて暮らせば老いの手力男命広口瓶のジャムの蓋明け
 炭坑の滅び坑木用松山の消えて若木台四丁目ここ
 痛む足ひきつつ夜の坂のぼる月も老いてゆくのだろうか

第五四九回 俳句作品集

宗像市 神湊 永島 紀子

宗像市 光岡 白土 凌一
 初夏来たる田植の足音すぐそこに

宗像市 日の里 花田いつ枝
 字を異に親子表札初燕
 宗像市 平井 占部 詩子
 募る野火巨巖自若とありにけり

編集後記

恐らく多くの皆様が、平素一幸せとは何かなど意識せずに日常を過ごされていると思いますが、神社界の大会で興味深い挨拶を拝聴しました。あなたにとって幸せとは何ですか？究極の幸福とは「人から愛され、人に愛められ、人の役に立ち、人から必要とされること」個人を組織に置き換えて、この組織もそうありたい、というものでした。▼出典は社員の七割が知的障害者というチヨーク製造会社の会長さんが取材に応じ、新聞に掲載された言葉です。知的障害者を大量に雇用する際に悩み、神僧に相談したところ「いたいた言葉だそうです。ちなみにその後「働くこと」で三つは手に入る」と続き、社員が意欲的に働けるよう大きく貼り出されているそうです。▼立場を逆に「愛しているか、褒めているか、役に立とうとしてるか、必要とされるよう努めているか」を意識的に取り組めたら、円満な家族、円滑な組織、良い社会になることでしょう。優しい気持ちになれた印象的な挨拶でした。(塚)